

人材を社会に送り出し、この  
県西の地で當々と築き上げて  
きた実績は、伝統となって在

校生にも脈々と受け継がれて  
おりますが、創立九十周年の  
節目を迎えて、全日制普通科  
のみを有する高等学校となつ  
た今、過去の本校がそうであつ  
たように、次代に向けた新た  
な目標を持つべき時が来たの  
だと思っています。県下に進  
学校と呼ばれる高校はいくつ  
もあって、本校でも出口とし  
ての進学を目指して生徒の指  
導に当たっております。しか  
し、生徒諸君にはそれだけで  
はない何ものかを身に付けて  
本校を卒業してほしいと強く  
思っています。その何ものか  
を身に付けさせてくれる高校  
として、保護者や地域の方々  
から信頼されることが学校の  
特色であればと思います。

高等学校の目標は自立する  
人間を育てるにあり、自  
立するとは岐路にあって正し  
いと信じる選択ができる自己  
をつくり上げることです。日々  
の教育活動を通してそのよう  
な人間を多く育てていくこと  
ができれば、学校としての存

在意義を将来にわたって示し  
ていけると考えています。

生徒諸君、君たちには、今  
後とも日々努力し成長する姿  
を見せて欲しい。本校卒業生  
の一人として大いに期待して  
おります。

最後に、永年に渡つて本校

紫 西 会 報  
で活躍を続けてもらいます。  
下館一高が、時代の求める

○進路指導は、生徒一人一人  
に自己の適性を見発させ  
るものとなっているが。

○生徒指導は、生活指導を  
含めて心の成長を助けるも  
のとなっているか。

○特別活動は、生徒会活動、  
各種の行事或いは部活動を  
通して、自主性を育てるこ  
とができるいるか。

○そして、生徒は、本校卒  
業時において、自分の前に  
ある困難な課題に対し、  
逃げずに解決していくことと  
する意志と姿勢を示せる人  
間に成長しているか。

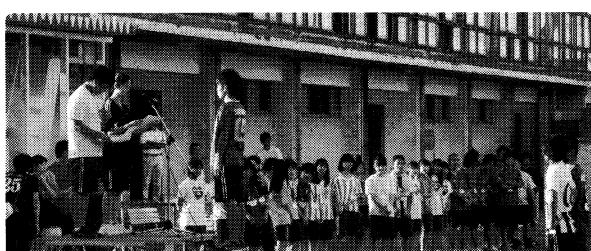
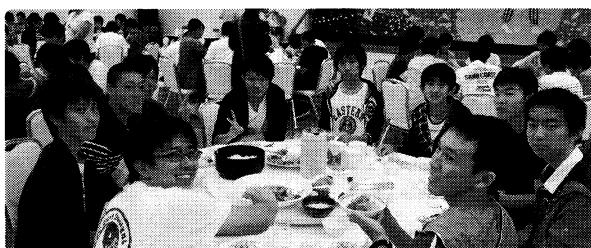


## 継承していくために

生徒会長 中川奏美

を支えていたいた絶の方々  
に感謝申し上げるとともに、  
今後とも変わらぬご支援を  
お願いして、式辞といたします。

我が校は今年で創立九〇周  
年を迎えました。進学校と呼  
ばれている下館一高ですが、  
平成二五年度の大学合格実績  
として京都大学への合格者が  
できるという功績を残しました。  
しかし、勉強面だけでなく、  
部活動にも注目していただき  
たいです。硬式野球部が第六  
回秋季関東地区高等学校軟  
式野球部が第五回秋季関  
東高等学校軟式野球大会茨城  
県予選会において、第四位に  
入賞し、二〇年ぶり九年目の  
関東大会出場を決めたりと、  
様々な部活動が活躍しました。  
勉強と部活動を両立し、さら  
に自分たちの手で行事を盛り  
上げ下館一高を作っていくこ  
とが、九〇年間受け継がれて  
きたよき伝統だと思っており  
ます。今度は、私達が、この  
伝統を継承していくなければ  
なりません。今、自分に出来  
ること、自分がやるべきこと  
をみなさんで考え、実行し、  
さらなる下館一高の発展に繋  
げていきましょう。



## 記念講演

# 「館高生へのメッセージ」

講師  
谷島賢二先生

東京大学名誉教授・学習院大学教授

(第四十三回卒)



本日はお招きを頂いて若い後輩諸君の前でお話を機会を与えて頂き、有り難うござります。私は昭和三九年（一九六四年）四月に館高に入学 昭和三四年（一九六七年）の三月に卒業いたしました。今年が九〇周年ですから

當時は工業科が独立して間もなく、ない頃で、商業科と普通科五人の四クラスずつ、二三〇人ずつと、夜間の定時制からなっていきました。現在は普通科のみという眞合で、校長先生から「説明があつたようにこの間さまざまの変遷があつ

た訳ですが、館高は九〇年に  
わたってこの地域に、日本の  
各地に、また世界の様々な地  
域に優れた人材を輩出し続け、  
この地域や日本の、また世界  
の様々な方向への発展に寄与  
し続けてきました。現在もい  
の地域を代表する高等学校と  
して優秀な卒業生を毎年世  
中に送り出しているのであり  
まして、これは特筆されて良  
いことだと思います。あらため  
て九〇周年のお祝いを申し  
めて九〇周年のお祝いを申し  
述べたいと思います。

私の年代はいわゆる団塊の  
世代、戦後のベビーブームに  
生まれた世代で、同一学年の  
人の数が二六〇万人もおりま  
した。おかげで、私たちはい  
わゆる受験競争の最も厳しい  
時代に高校生活を過ごすこと  
になりました。現在の高校三  
年生が生まれた平成一〇年の  
日本での出生者数が一二〇万  
人になりました。受験の結果  
三三四七人だそうですから、  
私たちが高校三年生のときは  
現在の倍以上の高校三年生が  
いたことになります。受験の  
厳しさが想像してもらえると  
思いますが、実力試験の結果  
が成績順に廊下に張り出され  
たりして、なんかいつも尻を

中は送り出しているのであります  
まして、これは特筆されて良  
いことだと思います。あらためて良  
めて九〇周年のお祝いを申し  
述べたいと思います。

す。また、東京オリンピックが開かれたと言つても、会比較すればまだ世の中は貧かった様に思います。たとえば農家の子供の多くには、の中に勉強する特別な場所なかつたと思います。それ私たちは放課後や日曜日に、当時校庭の端にあった木造校舎の教室を勝手に拝借し、勉強をしていましたが、いだつた当時の校長先生が見えになつて、電気代がかかるなど我々の前で咳かれたのを記憶しています。そんなん代でした。と言つことです。で、あまり余裕のある高校活と言ふ訳には行かなかつのですが、それはそれなり楽しい時間でもあつたよ記憶しています。

考へている学生が多いよ  
見えてならない。そのため  
試験になると一生懸命に  
試験に出そなところを覚  
えていたが、試験が終わ  
るのですが、試験が終わ  
ると忘れてしまつて、  
生の授業を聞くときには  
年生で習つたことを殆ど  
ていないと悲惨なこと  
なつてゐる場合が多い様  
なつてゐるからです。これは本  
もつたない、時間の浪  
うか人生の浪費です。  
は数学も含めて学校で習  
のが役に立つもので、学  
とが楽しいことだとは思  
いないからではないか、  
て、普段はあまり時間を  
ずにいて、試験の前にだ  
強するということをして  
からではないかと想像し

実はこの場で何をお話しあべきなのか、「い 最近まで悩んでいました。悩むのも 私は所詮数学者なので、結論 「数学はとても役に立つのだ。科学はとても役に立つのだ。 一般に学校で教わることは役に立つものなのだ」という話を しようと書いたことがあります。 した。どうの、今の大学の学生をみると、数学は試験勉強のために勉強しているのだよ

考へている学生が多いように見えてならない。そのため試験の前になると一生涯に試験に出そなうといふを覚えるのですが、試験が終わるとすべて忘れてしまって、二年生の授業を聞くときには、一年生で習ったことを殆ど覚えていないという悲惨なことに陥っている場合が多い様に見えるからです。これは本当にもつたない、時間の浪費といふが人生の浪費です。これが数学も含めて学校で習うものが役に立つもので、学ぶことが楽しいことだとは思っていないからではないか、従つて、普段はあまり時間をかけて、試験の前にだけ勉強するという事をしているからではないかと想像している訳です。どんな学科の勉強も同じだと思いますが、数学は時間をかけて、自分で多くの問題を解いて見て、解けた時の快感を味わないと、意欲も沸いてきませんし、決してあるようにはなません。自分で、それも何回も練習問題を解いたらすることによって理解ができませんし、頭に残りません。「読書百刃意ねる」

すから「通ず」と言いますが、何回も繰り返す「こと」によって、一つのことを様々な新しい角度から考えることになって理解が深まるのだろうと思います。1)のように忍耐を要する事を実行するには何かを知りたい、あるいは理解したいと言へ、いわゆる強力な知的好奇心をもつことが大切ですが、そのような好奇心を持つためにも、学ぶことがとても役に立つことなのだと確信することが大事なように思います。そこで数学が本当に役に立つものだと言うことを皆さんに少しでも確信して頂こうと思つて、以下の話をしようと思います。

数学は科学を記述する言葉です。従つて数学が分からないと科学の殆どは理解できません。それは言つても数学が活躍している場はなかなか目に見えないので実感が沸かないのではないかと思います。いくつかの例を申し上げましよう。なにが身近でしょうか?まずは諸君が今勉強している、あるいはすぐ勉強することになる、微分や積分、物理を例に取りましよう。

物理でないう物体の運動は、